

九州・沖縄地域共生社会推進フォーラム

ご本人の声から始まった施設の取り組み ～人口減少のまちでいま私たちができること～



社会福祉法人 姫戸ひかり会

特別養護老人ホームひかりの園

施設長 深谷 誠了

(熊本県上天草市)

熊本県上天草市

人口約2.5万人(2022年11月現在)、面積126.94km²、熊本県西部の天草地域の玄関口に位置し、大小さまざまな島々から構成されています。ほぼ全域が雲仙天草国立公園に含まれる日本三大松島の一つにあげられる松島の風景など四季折々に美しい表情を見せ、景勝地として、天草五橋の開通以来、多くの観光客が訪れています。



1. 施設紹介

ひかりの園

社会福祉法人 姫戸ひかり会

**ひかりの園の運営理念**

ひかりの園では、「ビハーラ」（安らぎの場所）の実現を目指します。具体的には、宗教・宗派にとらわれず、親鸞聖人が顕かにされたお念仏のみ教えにとかれる「いのちの尊厳と平等のこころ」の実現を目指し、思い通りにならない人生のなかでどのような状態になろうとも安心してありのままの自分でいられる生活をめざします。

特別養護老人ホームひかりの園（従来型）
入居定員：50名（従来型個室10・多床室20）

特別養護老人ホームひかりの園指月館（地域密着型）
入居定員：20名（1ユニット10名×2）

短期入所生活介護事業所ひかりの園
利用定員：16名（2人多床室：8室）

デイサービスセンターひかりの園
利用定員：30名

グループホームひかりの園ビハーラ館
入居定員：9名（1ユニット・9名）

居宅介護支援センターひかりの園
その他地域支援事業等

ひかりの園・教良木デイホーム
利用定員10名（地域密着型通所介護）

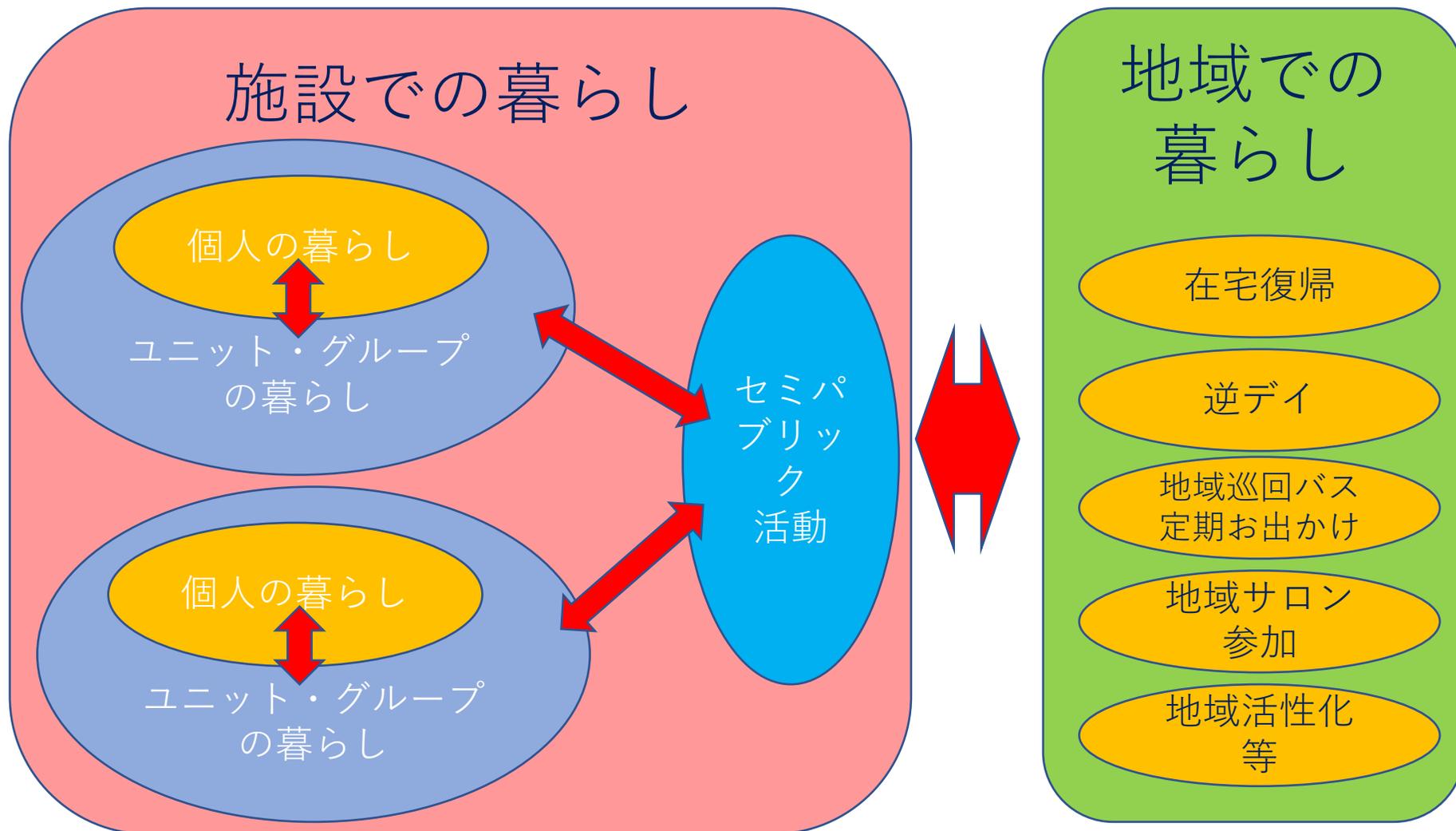
その他、法人事業
姫戸ひかり保育園

1. 施設紹介



1. 施設紹介

“ユニットは「入口」で出口は「地域」”



1. 施設紹介

ユニットケアと出会って、こんなことに取り組んでいます。

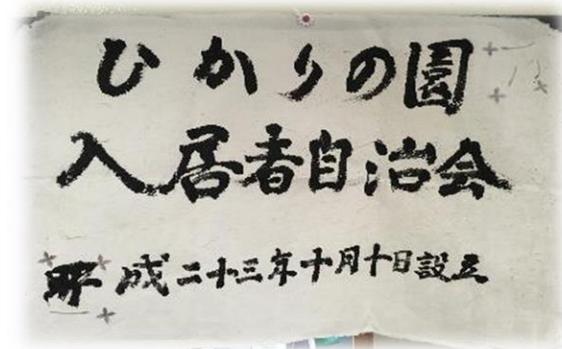
- 本館入浴棟の増改築 2009年
- 本館のなんちゃってユニット化
- 地域食堂フェスタ 2010年
- 新型ユニット棟（指月館）の増築・玄米食実践等 2011年
- 入居者自治会（わし等のことはわしらが決める）
入居者自宅逆デイ（施設にいても家がいい）
- 地域ケア体制への着手 2012年
- 下関GBI（じいさんばあさんよろず市）出店
教良木子ども夏まつりの開催（元・小藤商店） 2013年
- 教良木よかbyディスカッション（県農水助成事業） 2014年
- 地域で過ごす“敬老会” 2015年
- GBI IN天草・教良木 2016年
- 教良木デイホームの開設 2017年
- デイサービス改修（ユニット化・浴室改修） 2018年
- 上天草ちいきKAIGOREBORNPROJECT（上天草高校・介護魅力化）

2. 地域との関わり

ひかりの園入居者自治会設立

(2011年)

～わしらの事はわしらが決める～



(入居者・利用者ご本人)
入居者の主体的な暮らしをする。

(職員)
お年寄りとの関わりが深くなる

入居者自治

- ・「わしらの事はわしらが決める」
(家族や職員が決めるな！)

自主財源

- ・財源確保の活動
- ・コーヒー販売等

仲間づくり

- ・総会・定例会・活動
- ・モーニングサービス (仲間との食事)

自宅逆デイ

逆デイ拠点づくり

- ・自宅へ帰りたい
- ・知り合いと過ごしたい

共に地域へ出かけることへ。

2. 地域との関わり

2013年 地域（故郷）に出かけられる場所づくり「（元）小藤商店」



2. 地域との関わり

2013年（元）小藤商店ワークでの出会い



Rちゃんのつぶやき

- ・「ねえねえ、ここは何するところ？」
- ・「子供の遊ぶばしょもつくってよ」
- ・「わたし、もうすぐ引っ越すんだ！」
「家を建てるんだけど、ここは人がいなくなっちゃうからって...」

2012年度末 松島商業高校閉校
「58年の歴史」

2013年度末 教良木中学校統廃合

（予定）教良木小学校統廃合
市立養護老人ホーム民営化



2. 地域との関わり

リフォームを手伝ってくれた子供たちと自治会の共同企画「教良木子ども夏まつり」開催



3. 地域へ展開

地域密着型通所介護(小規模デイ)

ひかりの園

教良木デイホーム



企画シート(ひかりの園CAP2015教良木版)

(A:現状)

- 人口:人口863人・高齢化率40%・18歳未満90(H24/3)
- 機関:松商(廃校)・教良木中(廃校)・小学校(数年後)保育所(?)・養護老人ホーム(民間移譲?)
- 産業:地域手産業:農業(ほか通勤者)
- 声:「何にも無くなってしまう」「若者が動かない」「年寄りか元気」

(B:課題)

- ①若い世代が住みたいと思えない(人口流出)...の何故?(雇用の問題?・誇りが持てない?...) ⇒「地縁・血縁ムラ社会」...
 - ②子育てに関するサービスが少ない
 - ③高齢者の福祉サービスが利用しづらい
- ※はびこる「ないない意識」をリフレーミングする!!

テーマ「故郷・集落での住み残ることができる暮らしを支える」(教良木版)

(C:取組)

- ①人と人が未来へ向(けて関わりあう場づくり
- ②暮らしを支える福祉の充実(施設・機関偏重からの脱却)
- ③地域活性化の取組「これから郷組(仮)設立(住民組織として)・相互理解・地域のい(い)運動・あるもの探し

小地域展開

地域サロン・寺子屋・学童? (住民主導)

地域福祉ホーム 逆デイ・デイ・配食・お祭り

組合事務所 多機能販売所・図書館その他

(D:スケジュール・予算)

- ①大石米造邸の始動(6月)
- ②福祉関連機関調整・逆デイ(7-8月)
- ③住民参加サロン開始(9月)
- ④指定申請等・各法令関係調整(3月)
- ⑤一部住民主催組織への移行(4月)

取り組み時の留意事項

地域の現状

1. 地域の人口・展望

2. 地域の産業

3. 地域の福祉

4. 地域のデマンド・意識

地域にとって必要なサービスのあり方

アクセシビリティという考え方

地域社会で暮らし続けるためには、「ニーズ」と「充足するためのサービス」ができるだけ接近している必要がある、という考え方

コミュニティオーガニゼーション

一つの事業・建物をつくるなら・・・

1. 全体の最適化の思考が大切

2. 価値共創(価値は共に作る)

3. 住民満足度

4. 地元産業の関連した循環を生む

これらを、十分意識しながら、“あるべき状況”を作り出し、必要に応じて変化することができる準備をしておかなければならない。そしてそれを支え続けていく人材の育成も欠く事ができない。

情報共有

役割分担

事業構想力

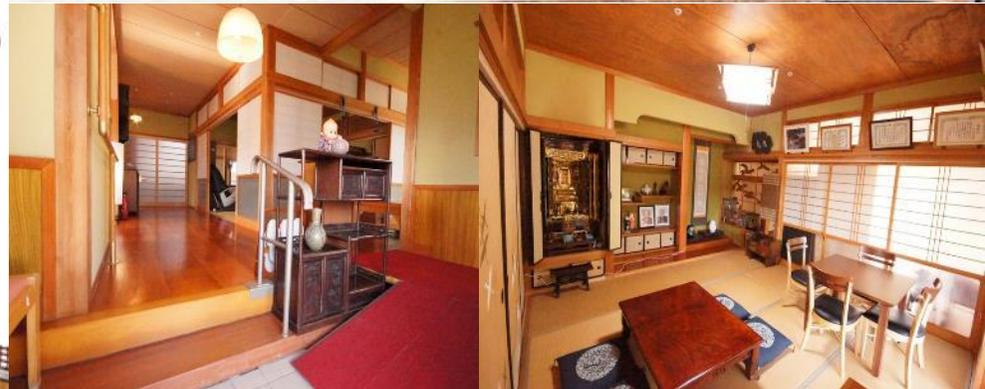
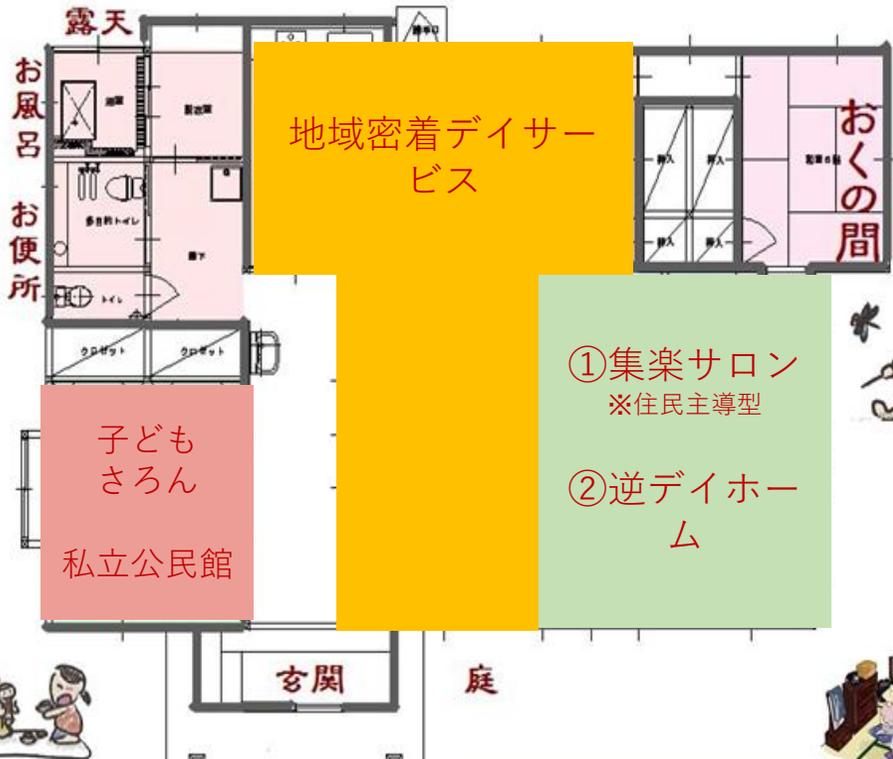
事業継承力

3. 地域へ展開



畑・菜園

車庫



集楽デイサービス

地域密着型通所介護

集楽さろん

介護予防・障がい・地域交流サロン等

逆デイホーム

入居しても地域で過ごす

子どもさろん

キッズ広場・子供ルーム(図書館)・
地域寺子屋・ママ友サークル等

3. 地域へ展開

地域密着型通所介護(小規模デイ)

ひかりの園

教良木デイホーム



こんな時代だからC・C・S
コミュニティ(communitiy)
コミュニケーション(communication)
スペース(space)
が必要です。

地域(communitiy)の培われた関わり(communication)の延長に、どんな状態(高齡・身体的・精神的等)になろうとも、永く暮らしてこられた近隣で、今までの関係(communitiy)のまま、過ごすことができる場(space)を作っていきたい。

- ①今までの当たり前が、当たり前であるために必要なことを行っていきたい(care)。
- ②皆で居ることが“楽”、一人であることが“楽”、仕事していることが“楽”。色んな“楽”が“集まる場を作りたい(salon)。
- ③これらの延長線に、これからを描いていく事が出来る世代を超えた“関わり(communication)の場”を作っていきたい(center)。

『身近なところで、いろんな関わり会える、場所がある』という『デイサービスの皮をかぶった地域生活支援ホーム』づくり。

通所介護として

通常の通所介護として、通所介護計画書に基づいたサービスを行います。送迎・健康チェック・個別ケア・リハ・送迎など

お食事作り

かまど炊飯

畑・味噌・等

ひなたぼっこ

地域回想法

コミュニティドライブ(地域内案内)
コミュニティウォーク(つながり保持)



※サロン活動はコロナ関連により休止、無くなってしまいました。しかし認知症の方利用日外もがサロン部分に遊びにいらっしゃることもあります。

3. 地域へ展開

施設ケアの逆デイとして

逆デイをお出かけ拠点として



3. 地域へ展開

コミュニティ・コミュニケーションスペース

キッズスペースとして
PTA活動



4. 既存事業・活動のブラッシュアップ

ひかりの園入居者自治会

感染症対策により、他者との接触することを制限され、役員の方々が受け身の姿勢となる。活動・自主財源も減少。



ひかりの園デイサービス

既存の通所介護でも、空間のユニット化をすすめています。今からの時代は個々に「納得」いただけることが土台として必要です。2022年7月より、BLG天草として活動を始めました。「働く」「仲間づくり」を通じ認知症であってもその人らしさを支えます。



100 BLG
天草



メンバーより

ここに来ると友達に会える。家に一人だと余計なことまで考えて眠れない事もある。ちょっと動くだけであなたたちは「ありがとう」と言ってくれる。家ではやらなくなった事も、ここではやらせてくれる。「できることはせんとね。」



5. 産学官連携事業

上天草いちき
KAIGO・REBORN・PROJECT
2022年度
～上天草高校福祉科創設した地域への貢献～

第4回

楽ワザKAIGO in 上天草高校福祉科

～最先端実践型介護人材養成プログラム&ネットワーク授業～

介護というイメージが“きつい”“大変”“苦しい”という大きな誤解が、介護を志す人、高校の福祉科志願者の減少に影響を与えているかもしれません。また、そんな考え方が根底にある社会は“介護を受ける人々の心”を傷つけてしまっています。それらの原因を作ってきた一端は、もしかすると福祉に関わっている福祉施設職員や福祉教育に関わる人もかもしれません。その偏りに固定した見えてくる各々の問題を地域の中でつなげ、課題化し、解決していくために、地域内の各機関や団体（産・学・官）が連携し、課題解決に向けた具体的なアクションを推し進める時期だと考えられます。「介護は大変な仕事、けれども、“大切”で“楽しい”仕事である」という事を今一度深め、実践する事が望まれます。

今年度も楽ワザ介護塾の青山幸広先生をお迎えし、介護の本質・抱えない介護の実践などを通して、お年寄りや元気でいるための介護のあり方について授業をしていただきます。介護は楽しく、最もクリエイティブな業界である。とを生徒だけでなく参加の皆様全員で体験していただきます。

開催日時 2022年12月5日(月) 8:55～15:40
講師 青山幸広氏(RXGUMI・NHK放送局出演 等出演)
開催場所 熊本県立上天草高校 視聴覚教室



「上天草いちきKAIGO・REBORN・PROJECT」は、福祉事業者(県立上天草高校(学)・上天草市(官))の連携し、それぞれの異なる課題を解決していくためのものです。福祉・介護という職種で働くことができない人の心の支えとなり、また「REBORN」は「生まれ変わり・再生し、可能性を伸ばしているものに象徴しているプロジェクトです。
後援(業): (一社)熊本県社会福祉士会・(一社)熊本県介護福祉士会・(社)熊本県社会福祉協議会人材研修センター・他



このプロジェクトの目的

このプロジェクトは2018年度から始まりました。介護というイメージが、“きつい”“大変”“苦しい”という大きな誤解が、介護を志す人、高校の福祉科志願者の減少に影響を与えているかもしれません。そんな考え方が根底にある社会は“介護を受ける人々の心”を傷つけてしまっています。プロジェクトを通し見えてくる各々の問題を地域の中でつなげ、課題化し、解決していくために、地域内の各機関や団体（産・学・官）が連携し、課題解決に向けた具体的なアクションを推し進める、実践することを目的としています。「介護は大変な仕事、けれども、“大切”で“楽しい”仕事である」という事を今一度深めることが望まれます。

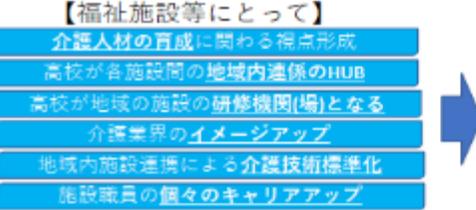
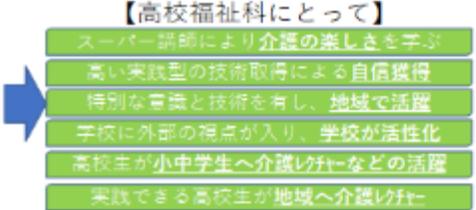
各々の課題

【上天草市】
県立高校維持・市外就職進学流出防止・定住政策

【高校】
学校機能向上・介護の新たな視点・入学者志願増加プレ

【各事業所】
介護人材育成・地域内介護の標準化・連携等

地域・未来への展開



5. 産学官連携事業

まち・ミライフオーラム2023

ひかりの園開設27年地域貢献事業

inkamiamakusa



私たちが住む“まちのかたち”は変わっていきます。ここに住む私たちがこれからをどのように描き、共に実現していくためのフォーラムです。

地域の「あるもの」を知り気づき、「ひと」「こと」「もの」を開く人々と産学官金公民連携の中で育んで参りましょう。



session1 (16:30~17:15)

基調講演

「笑顔、感動と感謝のまちづくりとは？」

木村 俊昭 先生

東京農大教授・経営学博士・日本地域創生学会会長・地域創生実践総合研究所長等。

「地域創生の真実—『五感六育®』の全体最適な『立体的ストーリー政策』の創発—」
(農の蔵文庫/2021) 執筆。NHKプロフェッショナル仕事の流儀ほか出演。

【フォーラム開催概要】

●ミライフオーラム (第1部)

開催日程：2023年1月28日 (土曜)
開催時間：16:00受付 16:30開会
開催場所：リゾラテラス天草・SeaBall
参加費用：フォーラム参加無料 (定員30名)
お問合せ：0969-56-1900
(担当：ひかりの園・坂田・福田)

●ミライ意見交換・懇親会 (第2部)

開催日時：2023年1月28日 (土曜) 19:00~
開催場所：リゾラテラス天草・SeaBall
参加費用：5,000円 (飲み放題)

参加申込：右記QRコードより申込みください。

※フォーラム・意見交換会共に定員がございます。定員オーバーの場合はお断りすることがあります。ご了承の上お申し込みください。

主催：高齢者福祉施設ひかりの園

session2 (17:20~18:10)

まち・ミライフオーラム

～ 今、そしてこれからのカタチ ～

- ①上天草の観光のミライ
- ②上天草の医療のミライ
- ③上天草の福祉のミライ
- ④上天草の学校のミライ

※地域の実践者の方々の調整中 (内容は変更する場合があります)

session3 (18:10~19:00)

ワールドカフェ・発表・まとめ



終わりに

行政等の視点

現行の制度や行政の縦割りの視点だけでは、本人・地域を支えきれない

制度や福祉の個別部分最適化の視点から、地域という全体の最適化の視点へ

地域課題を住民がポジティブに解決するためにはコーディネーターが必要

中長期の視点で、地域人材・福祉人材の育成ということ（新規・既存・機関）



誰もが地域で豊かに、その人らしく暮らすことができる地域へ

これから求められる（予想される）サービスを、この地域の中で楽しく展開していきける仕掛けづくりを“法人連携・機関連携”の中で進めていきます。



制度で分類されたサービス

地域・住民との協同不足

地域内事業所連携不足

過疎化による人口減少

地域内法人の連携不足

自分も地域住民という自覚

介護・福祉人材不足

支える世代の減少・流出

法人・事業所等の視点